



# 県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係

※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

[大分県立病院ウェブサイトはこちら](#)**外科**

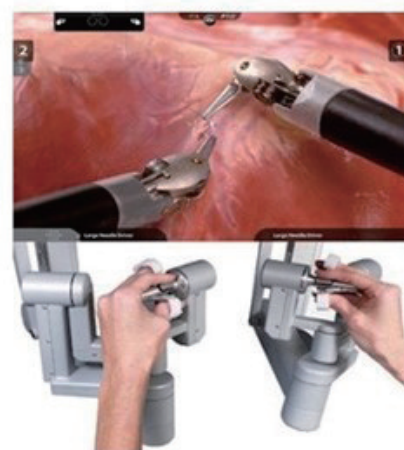
## 胃がん治療最前線 コンバージョン手術とロボット支援手術

胃がんは日本人にとって身近ながんであり、1年間に約13万人(男性9万人、女性4万人)が新たに胃がんと診断されています。現在、その半分以上は早期がんで発見されており、早期胃がんに対する内視鏡切除や手術による治療成績は良好です。しかし、肺や肝臓などへの転移や周囲臓器への広がりにより手術が難しい場合もあります。

近年、胃がんにも効果のある抗がん剤が続々と開発されており、これらの薬物の組み合わせにより外科切除が困難ながんを縮小させ手術ができるようになる患者さんも増えてきました。このような薬物療法によって転移巣などを縮小あるいは消失させ、手術を可能にする治療はコンバージョン手術と呼ばれています。この治療により、病状が進行したがんでも完治できるケースが出てきており、当院では消化管内科と外科の十分な協力体制のもとにコンバージョン手術を進めています。

一方で、手術できる患者さんに対しては、体への負担をより少なくするために従来の腹腔鏡手術をさらに進化させたロボット支援手術が行われるようになっていきます。特殊なカメラで手術部位を拡大し3Dのハイビジョン画像で観察することにより細かな解剖まで分かりやすくなり、手振れのしないロボット鉗子を操作することで、より精密な手術を確実にこなせるようになりました。当院でも2023年度からロボット支援手術を開始できるよう準備を進めているところです。

(外科 副部長 安田 一弘)



# 呼吸器外科

# 肺がん治療について

当科では主に肺がんに対する手術を行っています。がんの進行度は大きさや転移の有無により病期（ステージ）I～IV期に分類され、I～III期に対して手術が検討されます。肺がんの標準的な手術方法は肺葉切除といって、肺葉という肺のブロック（図1）をまとめて切除する方法です（図2上）、しかしながら近年では画像診断の精度の向上から早期に発見される病変も多く見られるようになりました。小さな病変に対する縮小手術（従来よりも肺を小さく切除する方法）（図2下）について世界的に研究が進められています。

今年報告された臨床試験の結果では、区域切除といって、肺葉よりさらに小さなブロック（区域）で肺を切除する方法が肺葉切除の治療効果と同等であったことが示され、小型肺がんに対する区域切除が肺がんの標準治療のひとつになりつつあります。そのような背景を踏まえて、当科でも早期肺がんに対して積極的に区域切除を行うように努めています。

区域切除の対象となり得るのは、大きさが2cm以下で末梢に存在し、他に転移を認めない病変です。切除する区域につながる血管・気管支を処理し、ICG（インドシアニンググリーン）という薬剤を使用して（図3）区域の境目を見つけ、切除します。縮小手術の合併症の頻度は従来の肺葉切除と同程度です。

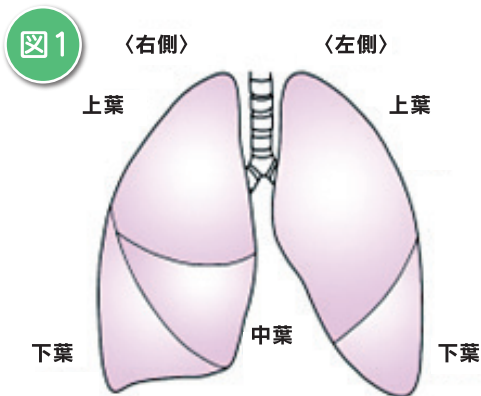
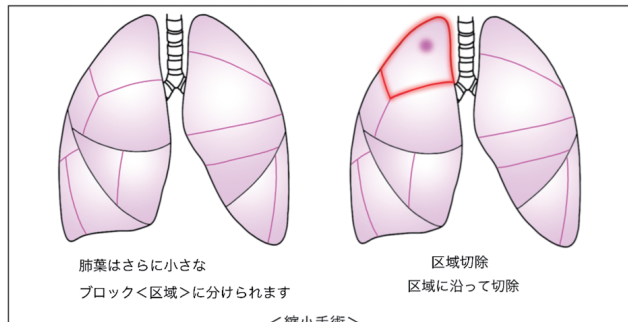
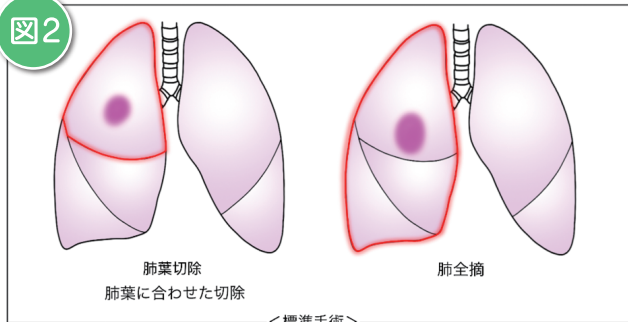
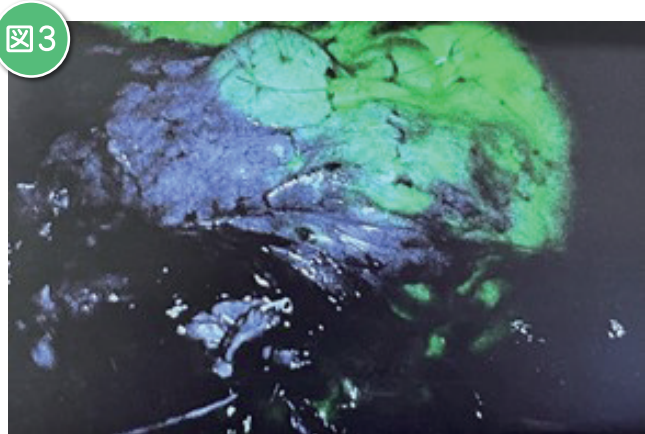


図1 肺葉（右3葉、左2葉）



標準術式（肺葉切除、肺全摘）と区域切除



実際の区域切除の様子（ICGによる区域間の同定）

参考文献：THE LANCET, vol. 399, ISSUE 10335, p1607-1617, APRIL 23, 2022  
 小型末梢非小細胞肺癌における区域切除と肺葉切除の比較（JCOG0802・WJOG460L）

（呼吸器外科 医師 今井 諒）



看護師ほか医療スタッフの臨時職員を募集しています。詳しくはこちら